

ウエイ ラ ミン ティエン

为 了 明 天

—— 明日のために ——

子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

河北省易県への教育支援を基軸に活動を展開

—— 総会報告 ——

代表理事 諏訪 きぬ

宋慶齡基金会JCCの第8回総会を2月28日(日)に開催いたしました。2009年度の事業・活動を顧みますと、国際行事への参加と友好交流の絆を育むための支援プロジェクトの実施と模索が主たるものでした。前者では、10月、中華人民共和国建国60周年記念に参加し、中国の発展と課題を目の当たりにしました。また同月フィリピン・マニラで開催された第2回世界宋慶齡基金会主席会議に三名が出席し、他国の活動状況を見聞き視野を広げることができました。11月には、上海「幼児創造教育国際シンポジウム」に参加し、宋慶齡基金会の本来のテーマ「次代の健全な育成」に関わりました。後者では、9月下旬、京友会が10年余教育支援を継続してきた寧夏回族自治区南部3地域の視察に赴き、現地での辞典の寄贈を実施しました。寧夏も西部開発政策の下で経済発展

が著しく、豊かに変貌しているとの印象が強かったようですが、学童たちの実態はまだ「必要」を満たしていないと感じられたようです。

当会は、長年中国の貧困地区への教育支援・母子保健支援を呼びかけてきましたが、これは、日中両国の友好の絆を培うための「支援」であります。広大な領土、巨大な人口における総生産高はわが国を追い越すものであっても、農山村の子どもたちの「必要」はまだ満たしていません。私たちは、両国の様々な状況の変化の中で、事業の方向と内容を模索しています。このような中、新年度のプロジェクトについては「貧困地区における教育事業への協力先」を「河北省の易県」に絞ることを決め、小中学校に「机・椅子」「図書セット」を贈る活動を中心に支援活動を継続することにいたしました。

皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



第8回 総会報告

2月28日、第8回総会を八王子労政会館で開催しました。

2009年度は、河北省易県の3小学校への机と椅子(60万円)、5小学校に図書セットの寄贈(40万円)、寧夏回族自治区の

小中学校の新入生に対して新華辞典または英漢・漢英辞典の寄贈(40万円)を行いました。皆様のご支援に心から感謝いたします。

2010年度も、河北省易県の小中学校への机と椅子(60万円)、図書セット(40万円)寄贈、貴州省賞郎小学校に学前班の設置(50万円)のプロジェクトを実施します。

2009年度 収支計算書

2009年1月1日より2009年12月31日

| 科 目 | 金 額 | | |
|----------------|-----------|-----------|-----------|
| | 内 訳 | 期中小計 | 期中合計 |
| 収入の部 | | | |
| I 寄付金収入合計 | | | 2,817,000 |
| 正・維持会費 | | 1,045,000 | |
| プロジェクト寄付 | | 1,772,000 | |
| 幼児教育支援事業 | 0 | | |
| 母子保健事業 | 6,000 | | |
| 教育支援事業 | 791,000 | | |
| 図書セット寄贈事業 | 471,000 | | |
| カンパ | 504,000 | | |
| II その他の収入合計 | | | 54,759 |
| 中国への理解を深める為の活動 | | 52,500 | |
| 中国講座 | 52,500 | | |
| 預金利息 | | 2,259 | |
| 当期収入合計 | | | 2,871,759 |
| 収支差額前期繰越金 | | | 3,628,695 |
| 当期収入合計 | | | 6,500,454 |
| 支出の部 | | | |
| I 事業支出 | | 1,400,000 | |
| 教育支援事業 | 1,000,000 | | |
| 図書セット寄贈 | 400,000 | | |
| II その他の支出 | | 112,350 | |
| 中国講座 | 112,350 | | |
| III 運営費 | | 1,112,821 | |
| 振替口座加入者負担 | 21,860 | | |
| 事務室管理料 | 264,120 | | |
| 水道光熱費 | 70,423 | | |
| 旅費交通費 | 2,930 | | |
| 通信費 | 187,915 | | |
| 広報活動費 | 121,152 | | |
| 会議費 | 29,807 | | |
| 国際交流費 | 71,711 | | |
| 消耗品費 | 79,801 | | |
| 海外送金料 | 20,500 | | |
| コピー機リース料 | 148,680 | | |
| 原価償却費 | 52,526 | | |
| 雑費 | 41,396 | | |
| 当期支出合計 | | | 2,625,171 |
| 収支差額次期繰越金 | | | 3,875,283 |
| 当期支出合計 | | | 6,500,454 |

青海省大地震被災の皆様にお見舞申し上げます。

第5期(2010・2011年度)

NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会 役員

顧問：久保田 文次 小坂 哲瑯

監事：木村 良夫 堀越 信子

理事：阿久津 隆文 井岡 健

井岡 今日子 ○井上 睦子

磯貝 光子 牛久保 浩法

○川崎 高志 久保田 博子

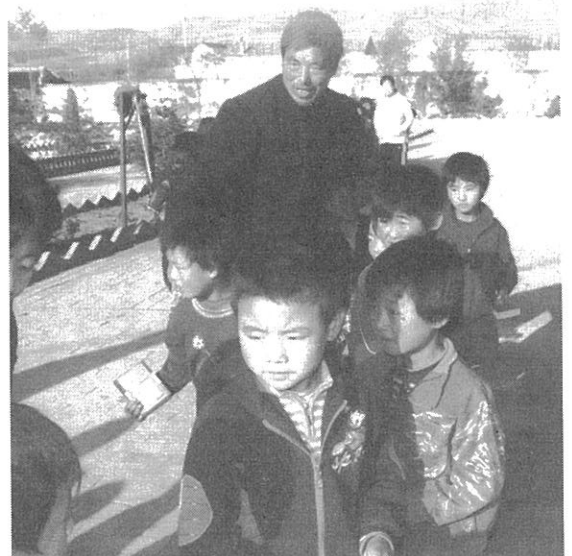
渋谷 文雄 新保 敦子

沈 潔 ◎諏訪 きぬ

中江 勁 西野 可奈

包 衛青 三浦 克子

※◎代表理事 ○副代表理事



2009年度 事業経過報告

2009年1月1日より12月31日

| プロジェクト内容 | 前期繰越 | 当期募金額 | 当期事業実施 | 現在積立額 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 幼児教育 | 544,339 | 0 | 0 | 544,339 |
| 母子保健 | 207,000 | 6,000 | 0 | 213,000 |
| 教育支援 | 0 | 400,000 | 400,000 | 0 |
| 辞典寄贈(京友会) | | | | |
| 「机と椅子」寄贈 | 279,000 | 391,000 | 600,000 | 70,000 |
| 小 計 | 279,000 | 791,000 | 1,000,000 | 70,000 |
| 図書セット寄贈 | 145,000 | 471,000 | 400,000 | 216,000 |
| 総 計 | 1,175,339 | 1,268,000 | 1,400,000 | 1,043,339 |

河北省易県文教科から 机と椅子・図書支援に対し 感謝状が届きました。



宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会 様

2009年、河北省易県文教科が再度宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会より机・椅子及び図書の支援を頂き、ここにご支援を受けた学校の生徒及び教師を代表して深く感謝いたします。

今回の机・椅子の分配状況を報告します。

今回のご寄付は合計60万日本円で、人民元44,500元に相当し、生徒の学習机製作に使用しました。3つの学校にそれぞれ分配しました。

(1人用 90元/セット)
(2人用 150元/セット)

これらの机・椅子は、2010年春節後に順次各学校に納入されました。

易県第四小学校：
188セット(1人用・4クラス) 16,920元

独楽中心小学校：
144セット(1人用・3クラス) 12,960元
講義台 6台 1,680元

易県西陵小学校：
86セット(2人用・2クラス) 12,900元

上記合計：44,460元

更に、易県の5小学校に図書のご支援を頂きました。これらはそれぞれ、易県第3小学校、第4小学校、独楽小学校、南城司小学校、東于坨小学校です。なお、図書は2009年12月に各学校に納入されました。

我々は宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会の長年にわたる、易県の教育に対するご支援に対して大変感謝しております。

2010年3月26日

易県文体教育局



西陵中学校の机と椅子



易県独楽郷中心小学校に寄贈の図書



寄贈された机と椅子で勉強する
易県第四小学校の子どもたち



建国60周年記念行事への参加と 幼児創造教育セミナーでの招待講演



代表理事 諏訪 きぬ

されていたことが印象に残りました。

国賓として

9月30日夕刻、温家宝首相主催の前夜レセプションが人民大会堂で開かれ、5000人が招待されました。翌10月1日には、天安門広場で華やかにくり広げられた盛大な祝賀パレードを目の当りにすることができました。中国宋慶齡基金会によって招聘された参加者は、国父と仰がれる孫文の子孫と孫文の革命を支援した日本人の子孫—梅屋庄吉の曾孫・小坂文乃氏と宮崎滔天の曾孫・宮崎黄石氏、それにフィリピンやカナダ、ハンガリー、イタリア、日本などの宋慶齡基金会の代表でした。

レセプションに先立って、宋慶齡故居では、新装成った文物館(宋慶齡の生涯を紹介する展示と関係史料所蔵)見学と中国宋慶齡基金会活動報告・文物研究報告会が催され、孫文・宋慶齡研究の今日的意義が語られました。参加者からは「孫科研究の必要性」を指摘する意見も出されました。

胡錦濤国家主席と温家宝首相のスピーチや祝賀パレードでは、国威発揚と国家発展の方向性が示され、中国がこれからの発展の方向を「科学技術」に求めていること、発展のためには少数民族への配慮が不可欠であること等が強調

2009 幼児創造教育国際シンポジウム

中国福利会・カナダ宋慶齡兒童基金会・上海市柳浦区人民政府・上海宋慶齡基金会主催のシンポジウムには、諏訪・井岡今日子・東田幸子が参加し、諏訪が「創造性を育む幼児教育」と題して講演を行いました。幼児の創造性を伸ばすために、カナダの Eve Adams 女史は「戸外遊びと創造性」と題して実践をPPで紹介されました。また中国や台湾からの報告では、幼児の創造性教育と「絵本の役割」を重視するものが目立ちました。

期間中には、中国福利会幼稚園60周年記念式典と中国福利会幼稚園見学もあり、旧交を温めつつ、新たな交流の場を得ることができました。



カナダ宋慶齡兒童基金会の皆さんと

寧夏回族自治区(海原・西吉・固原)訪問

京友会寧夏教育支援プロジェクト

2009年9月22日～25日

京友会は、1997年より、寧夏回族自治区南部の小中学校の校舎建設及び新入生への英漢・漢英辞典または新華辞典の寄贈、師範学院女子学生に対する奨学金支給を行ってきました。

昨年9月、阿久津隆文会長、中江 勁理事をはじめ5名の方々が、建設支援した学校の視察と辞典の寄贈を兼ねて、現地を視察されました。

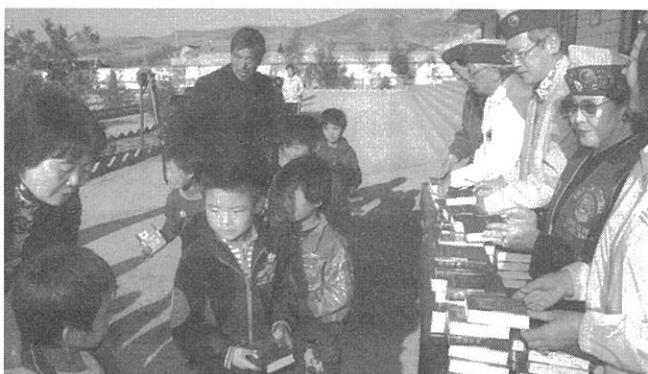
報告書からまとめて掲載します。

9月22日、北京で中国宋慶齡基金會の呉さん、通訳の王丹丹さんと合流し、銀川に向かう。銀川市内は、走る車の新しさ、立派な建物等も見られ、想像以上の街であった。

23日、銀川市内からバスで高速道路を2時間半くらい走り、さらに草木もない山々の道を2時間走って海原県関橋小学校に到着した。白い帽子を被った現地の方々が中、鼓笛隊の歓迎を受け学校に入った。新入生一人一人に辞典を手渡し、子どもたちや村民らに見送られ、次の訪問先へ向かった。子どもたちも、村の人々の暮らしぶりも極めて貧困であると感じられた。

舗装道路から未舗装の凹凸道に2時間ほど揺られ、西吉県へ到着し、地元の教育委員会関係者と懇談した。

その後、西吉和平中学校を訪問したが、同中学の規模は、建設当初より拡張され、生徒



固原市老庄小学校

数も多くなっていた。現地の様変わりに驚いたが、330-A地区ライオンズクラブの銘を刻んだ礎石を見て納得し、広い教室で現地教育委員会の方々と一緒に新入生に辞典を手渡した。ここでは、京友会からも挨拶を行い、生徒からもお礼の言葉を頂いた。やはり寄宿舎生活の子どもたちの貧困さが感じられた。

24日は、最後の寄贈先である固原市老庄小学校へ向かった。校庭で新入生全員に新華辞典を手渡して記念写真を撮り、教室での授業も参観し、子どもたちに見送られ帰途について、これで寧夏教育支援現地視察・辞典寄贈を無事終えた。

25日は、北京の宋慶齡故居を訪れ、基金會の劉穎さんの案内で邸内を見学。その後、中国宋慶齡基金會へ向かい、李寧秘書長と懇談し、呉存瑜対外連絡部長・基金部李課長も交えて昼食会となった。



中国宋慶齡基金會本部(北京)

中国の社会資本整備の実態と現地での貧困の子どもたちの姿を見ると、援助の意義について、気持ちが交錯する。



西吉和平中学校にて辞典寄贈



国境を越える宋慶齡精神の広がり

第2回 世界宋慶齡基金会主席フォーラム参加報告

理事 井岡 健

昨2009年10月10日から12日まで、第2回世界宋慶齡基金会主席フォーラムが

フィリピン宋慶齡基金会、中国宋慶齡基金会(北京)、上海宋慶齡基金会、及び中国福利会の共同主催のもと、フィリピンのマニラにて行われた。諏訪代表理事と井上副代表理事・井岡理事が当会(JCC)を代表して参加した。

このフォーラムは不定期に、世界各地の宋慶齡基金会関係団体の責任者が一同に集まり、お互いの活動内容を報告し、ボランティア経験の交流を通じて、相互理解を深め、基金会の更なる発展を目的として開かれている。

今回のフォーラムの主題は「国境を越える宋慶齡精神の広がり」であった。フィリピン、中国の基金会を始め、日本、カナダ、オーストラリア、ハンガリー、イタリア、ニュージーランドの9つの宋慶齡基金会、及び関連団体である台湾鳳凰文化基金など10団体が集まった。

フォーラムの初日は、まず各国の代表による報告会が開かれ、それぞれの特徴ある支援活動の状況報告は大いに参考となった。特に日本の基金会が中心となり、主として進めてきた中国貧困地域の乳幼児とその母親に対する支援活動(母嬰平安)が高く評価された。

その後、フィリピン宋慶齡基金会がマニラのスラムに援助して建設した集団住宅地を視察。JCCの代表団は子どもたちに、日本から持参

のお土産を配った。はじけるような笑顔で日本の紙風船で遊ぶ子どもたちの姿に感激し、胸が熱くなった。

フォーラムの2日目、参加者全員はBohol省に飛行機で移動し、フィリピン宋慶齡基金会が支援しているLoboc少年音楽団を見学。子どもたちの演奏を鑑賞し、子どもたち、また、当地の関係者と和やかに交流した。

最終日ー3日目にはマニラに戻り、フォーラムの参加者とフィリピン基金会の支援者たちとの楽しい交流が行われた。

3日間のフォーラムを通じて、我々は当会のこれまで行ってきた中国貧困地域の子どもたちに対する援助が、世界で認められたことを実感し、今後も、日本の支援者の皆様のご援助が確実に子どもたちに届くように、さらに努力をしたいと改めて決心した。



円仁慈覚大師の旅した中国 — 今と昔 —

〔講師〕

阿南・ヴァージニア・史代さん

「私は円仁の旅を通して、その時代の中国を、また東アジアの人々の交流に光をあてたいと思います」と、美しい日本語で、まず述べられた講師

・阿南史代さんは、米国生まれ、後に日本国籍を取得の歴史研究家（東アジア史・地理学）である。夫君、前駐中国日本大使阿南惟茂氏と共に北京に滞在の5年間を含め、25年の間、単身ジープを運転し、或いは運河を渡船で、山道は徒歩で、円仁の足跡を辿りつつ、写真を撮り、研究をつづけられた。そのスライドを交えながらの明快な講演は、満席の聴講者たちを魅了し、千年昔の中国と日本を、更に現代を深く考えさせるものであった。

紀元838年、円仁は最後の遣唐使の船に乗って海を越え、唐に渡った。彼は既に天台宗の高僧であったが、そのまま唐に残り尚深く仏法を求めて巡礼の旅を9年間も続けた、揚州—山東省—五台山—長安へ…新羅人の通訳や、多くの僧たちの支援を受けながらの旅。長安では印度の高僧からサンスクリットを学んでいる。その旅の間、円仁が毎日書き続けた日記『入唐求法巡礼行記』4巻7万字には、単なる旅の記録だけではなく、当時の社会・経済・文化・宗教・人々の生活、また仏教弾圧の有様まで記されている。当時はベトナム人・アラブ人・日本人・新羅人など朝鮮半島の人々もいて国際的な社会であった。円仁も中国の高僧たちと親しく交わり、また旅の途次では役人や村人から親切にされたと記している。（河北省—



山西省を経て五台山への険しい峠道や古い石畳の道など、1200年前の唐代の風景が彷彿されるスライドで、更に五台山の寺々や塔を見せてくださった)

史代さんが初めて『入唐求法巡礼記』に出逢ったのは米国で大学生の頃、ライシャワー博士の著書であった。その時この日記を是非研究し、円仁の足跡すべてを巡りたいと決心をされた由。それを長い年月をかけて立派に果たされ、時空を超え、国境を越えて、私どもにご教示くださったことに心から敬意と感謝を表したい。

—円仁は仏教弾圧の様々な苦難にも遭いながら、847年、新羅の船で帰国。比叡山の三代座主となり日本の仏教発展の基礎を確かなものにした—

（三浦 克子）

● 著書紹介 ●

円仁慈覚大師の足跡を訪ねて 今よみがえる唐代中国の旅

阿南・ヴァージニア・史代 著
小池晴子 訳

ランダムハウス講談社 刊

2009年

- 9月18日 中国宋慶齡基金会へ「辞典」寄贈40万円送金
- 9月22日～25日 京友会 寧夏回族自治区訪問
- 9月26日 第68回事務局会議
- 9月28日～10月2日 中華人民共和国建国60周年記念式典(北京) 諏訪きぬ代表参加
- 10月 9日～13日 第2回宋慶齡基金会主席フォーラム(マニラ) 諏訪きぬ、井上睦子、井岡 健 参加
- 10月18日 第69回事務局会議
- 第23回理事会
- 10月31日～11月3日 幼児創造教育国際フォーラム(上海) 諏訪きぬ、井岡今日子、東田幸子 参加
- 11月 7日 第15回 JCC 中国講座「円仁慈覚大師の旅した中国・今と昔」
講師：阿南・ヴァージニア・史代さん
- 11月22日 第70回事務局会議
- 12月13日 第24回理事会
- 12月24日 中国宋慶齡基金会へ「机と椅子」寄贈60万円送金
上海宋慶齡基金会へ「図書セット」寄贈40万円送金

2010年

- 1月 6日 仕事初め
- 1月24日 第71回事務局会議
- 1月31日 総会議案書発送
- 2月 6日 会計監査
- 2月28日 第25回理事会
第8回総会
第26回理事会
- 3月28日 第72回事務局会議
- 4月24日 第73回事務局会議
- 5月 8日 “為了明天” 第18号発行



JCC中国講座 第16回

予告

高齢者大国 中国の社会福祉をめぐって

講師：沈潔さん

(日本女子大学人間社会学部教授)

【プロフィール】中国生まれ。1983年から華中師範大学教員、1989年に日本女子大学に留学、1995年に社会福祉博士号を取得。1995年から中国華中師範大学社会学部助教授、教授。1998年から高知県立女子大学教授を経て、現職。「福祉に生きる一宋慶齡」「日本老人福祉制度」「中国社会保障改革と日本」「中華圏高齢者の介護と福祉」など著書多数

日時 2010年5月22日(土)

午後2時

場所 八王子労政会館 第4会議室

TEL.042-645-7451

参加費 500円

2008年現在の中国における高齢者人口は1億5900万人で、人口の12%を超え、中国は高齢者人口の最も多い国となっています。

いままで儒教文化の「家族扶養」を前提として、中華人民共和国憲法第49条でも「父母は未成年子女を扶養する義務があり、成年子女は父母を扶養扶助する義務を有する」とされてきました。一方、一人っ子政策の実施により社会構造・家族構造は大きく変化し、老親扶養放棄や老親の孤独死など「親不孝」の社会現象が深刻になりつつあります。高齢者の扶養を「老親扶養」の伝統に従って、各家庭に任せることは現実的ではありません。中国は、こうしたジレンマを抱えながら新たな選択を講じる時期を迎えています。

中国は、今後先進諸国の福祉モデルを追いかけるのか、それとも、中国の伝統文化の継承と高齢者保護に対する国家責任を調和させながら、独自の高齢者扶養システムを創設するのか、調査データー、写真を踏まえて、その道筋を探りたいと思います。

主催 NPO法人 宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会 問合せ TEL&FAX 042-646-4210

編集後記

4月半ばに雪が降るなど、寒くて長い冬でしたがもはや5月!! 青葉若葉の春らんまんとなりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。大地震や津波、火山の爆発など天災のニュースに心を痛めましたが、宇宙から見れば地球は美しい瑠璃色の星!! 明日の為に、愛と知恵を!! そして希望を一。ご支援頂く皆様の一層のご清栄をお祈りしております。(三浦)

「為了明天」No.18

2010年5月8日発行

編集：三浦・井上

題字：周肖

発行者：

NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会
代表理事 諏訪きぬ

〒192-0904 東京都八王子市市安町1-43-6-206

TEL/FAX 042-646-4210

郵便振替:00170-2-152423

三菱東京UFJ銀行八王子支店 (普通)4731623